



©Timothy Greenfield-Sanders

五嶋みどり (ヴァイオリン)

MIDORI (Violin)

11歳でニューヨーク・フィルと協演した衝撃的なデビューから40余年、稀有な演奏技術に裏打ちされた品位と勇気こそが五嶋みどりの真骨頂である。円熟の域に達した今もなお、たゆまぬ研鑽を重ね、将来を見据えた委嘱プロジェクトや演奏機会の少ない作品の紹介、現代曲への積極的なアプローチなど、今日のクラシック音楽界を牽引するヴァイオリニストである。1992年に設立したMidori & Friends(米国)とミュージック・シェアリング(日本/第62回「社会貢献者表彰」受賞)を中心に、米国ではさらに複数の団体やプロジェクトを展開するなど、時代のニーズを先取りした社会貢献を30年以上継続している。ヴァイオリニスト、音楽家、芸術家である前に一人の人間のあるべき姿を追求するMIDORIの姿勢は、多くの共感と敬意を集め、2007年からは国連ピース・メッセンジャーとして、国連が掲げるSDGsに関連した様々な課題を克服すべく、現在に至る。

現代音楽家のロールモデルとして、MIDORIは年々影響力と存在感を高めるとともに、第一人者として次代の育成にも尽力している。カーティス音楽院で教鞭を執るほか、2025年秋よりジュリアード音楽院大学部門でも後進指導に力を注ぐ。

愛器はガエルネリ・デル・ジェス「エクス・フーベルマン」(1734年製)。録音作品は複数のレーベルから多数リリースされ、高評価を得ている。五嶋みどりが制作・出演した短編アニメーション『Musical Journeys with Midori, Mack and Cheese』のシリーズはNHK World にて全世界に放送され、『MIDORI とチーズの音楽日記』が、ショートショートフィルムフェスティバル&アジア2024で上映された。

国際的な受賞歴も数多く、直近では米国ケネディ・センターより「名誉賞」を受賞。



©Fabrice Umiglia

ルツェルン・フェスティバル室内管弦楽団(オーケストラ)

FESTIVAL STRINGS LUCERNE

1956年の創立。創設期はヴォルフガング・シュナイダーマン、ルドルフ・バウムガルトナーによる、チェンバロを伴う弦楽アンサンブルとして活動。2012年からはダニエル・ドッズが芸術監督を務めている。

ルツェルン音楽祭のゲスト出演のほか、ウィーン楽友協会、ベルリンのフィルハーモニー、アムステルダム・コンセルトヘボウなど一流コンサートホールで定期的に演奏している。エレヌ・グリモー、ダニール・トリフォノフなどの著名な音楽家との共演やキアン・ソルタニ、ヤン・リシエツキなどの若い世代の音楽家との共演も重ねている。特にルドルフ・ブッフピンダーと五嶋みどりとは緊密なパートナーシップを結んでいる。2020年には五嶋みどりとのベートーヴェン・アルバムをリリースしている。ルツェルン・フェスティバル・ストリングスとして活動しているが、今回は管打楽器を伴うルツェルン・フェスティバル室内管弦楽団として特別編成で来日する。



©Fabrice Umiglia

ダニエル・ドッズ(リーダー)

DANIEL DODDS (Rider)

ルツェルン・フェスティバル室内管弦楽団芸術監督。2000年よりコンサートマスターを務め、2012年より芸術監督に就任。ソリストとしてズービン・メータ、ウラディーミル・アシュケナージなどと共演。同楽団創設メンバーのバウムガルトナーのマスタークラスを修了。現在、ルツェルン音楽祭のソリストおよび芸術監督や客演コンサートマスターとして活躍している。使用楽器は、ルツェルン音楽祭弦楽器財団から提供された1717年製のストラディヴァリウス "Hämmerle-Baumgartner" と、モニカ・ヴィドマー・ルツェルン財団から提供された1680年頃のストラディヴァリウス "Seillière"。

swiss arts council

prohelvetia